

団体名	国立大学法人東北大学							
事業名	地域社会との継続的な「つながり」づくり: 伝統文化共修プロジェクト							
実施期間	平成28年5月～平成29年1月							
場 所	東北大学、仙台市各所							
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ	大学関係者	来場者等	合計
	370	0	50	60		19	約54万	約54万名

<実施内容>

本事業は、東北大学の留学生・日本人学生が地域の伝統文化に親しみ、地域住民と共に諸行事に主体的に関わる地域に根差した国際交流の推進を目指し、実施した。東北地方特有の、仙台青葉まつり、仙台七夕まつり等に見られる参加型伝統文化行事の準備において、同じ目標に向かう同志として地域住民と積極的かつ継続的に協働活動した。まず、仙台青葉まつりに向けては、仙台青葉まつり協賛会のご支援のもと、地域住民を大学に招いて、すずめ踊りを指導してもらうだけでなく、仙台市が市民向けに開催しているすずめおどり市民講座に参加し、仙台青葉まつりに向けてすずめ踊りやお囃子を練習している市民と一緒に取り組んだ。本番の祭りでは、訪れた人たちからの温かい応援を受けながら踊りやお囃子を披露し、街全体がすずめ踊りを通して一体となった。その一体感によって、留学生も他県から来た日本人学生も、仙台市民としてのアイデンティティを感じる機会となったようである。仙台七夕まつりでは、デザインの段階から鳴海屋紙商事の皆様にお手伝いいただき、ご指導いただいた。留学生・日本人学生が考える独創的なデザインをどのように形にするか、様々なアイデアを出していただくとともに、学生たちと何度もやり取りし、具体化していった。作成の過程でも慣れない作業をサポートいただき、無事8月6日から始まる七夕まつりに間に合わせることができた。設置に関しても地元老舗デパートの藤崎さんから場所をお借りし、仙台商工会の皆さんにお手伝いいただいて設置した。このように仙台青葉まつり、仙台七夕まつりとも地域住民の方々と同じ目標に向かってともに活動し、祭りへの参加に繋がった。そしてこのような継続的な協働活動から、地域住民と「つながり」をつくることができた。このような「つながり」は、何年にも渡って継続して行うことによって、より強固なものになっていくと考える。継続的にこのプロジェクトを実施するために、本学ではこのプロジェクトを単位化し、教育プログラムとして位置付けている。今年度は、すずめ踊りと七夕を1つの授業で実施したが、来年度からはそれぞれ独立させ、学生にとってより学びが深いものになるように時間をかけて実施する予定である。次年度以降もこれらの活動を継続的に行き、様々なことばや文化背景を持つ人たちが互いを理解し合い、支え合って暮らせるような多文化共生社会の実現に向けての一助となることを願っている。

<記録写真>



完成した七夕を見上げる留学生



すずめ踊り集合写真



地域住民とのお囃子の練習

<参加者からのコメント>

トマス・バウアーさん(ウィーン)/Thomas Bauer

マリン・イガさん(インドネシア)/Mourene Iga Farrir

観光客や踊り手を含む全ての人がたくさんのエネルギーをこの祭りに注ぎ、全てのものが綺麗に飾られていた。その場にいることを自分は心から楽しむことができました。

人生に一度の貴重な体験になった。関わってくださった皆さんに感謝したい。